

## マンモグラフィーで見た乳腺組織の画像



(NPO法人乳がん画像診断ネットワーク提供)

## 乳がんの検査の特徴

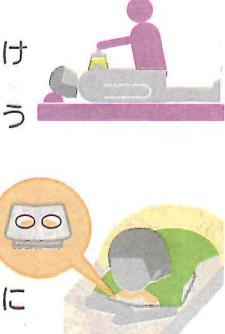
## ●マンモグラフィー

- 早期がんを見つける
- 高濃度乳房では、がんを見つける
- 痛みがある
- 微量の放射線被曝がある



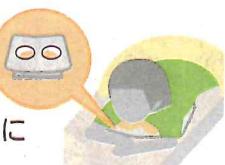
## ●超音波

- 痛みを感じない
- 高濃度乳房でもしこりを見つける
- 良性のしこりを見つけてしまう



## ●MRI

- 痛みを感じない
- 感度がよく、高濃度乳房でも発見率が高い
- 金属やペースメーカーがある人はできないことがある



「高濃度」そのものは病気ではない。問題は、マンモによる検査では高濃度の4、5割合が大半を占める場合をい

## 対応策

## 遺伝リスクある人検討を



「MRIを用いた新たな手法は今後、乳がん検査で大きな役割を果たせるはずだ」と語る高原教授（広島市中区）

マンモグラフィーによる検査の課題を補うと期待されるのが、超音波（エコー）検査だ。乳腺が高濃度の場合も見つけやすく、痛みもない。40代女性を対象にした全国規模の調査では、超音波を併用すると発見率が高まる結果が出ている。乳腺クリニックなど多くの医療機関で受けること

ができる。ただ、今のところ死亡率を下げる効果は確かめられていないため、自治体検診でも費用は全額自己負担が基本で、数千円かかる。

磁気共鳴画像装置（MRI）も、もう一つの選択肢として注目されている。これまで、検査ではなく精密検査の段階で活用されてきた。そんな

ことができる。ただし、この調査では、超音波を併用すると発見率が高まる結果が出ている。乳腺クリニックなど多くの医療機関で受けること

ができる。ただ、今のところ死亡率を下げる効果は確かめられていないため、自治体検

診でも費用は全額自己負担が基本で、数千円かかる。

ただ、この方法の検査は全国でもまだ数ヵ所でしか実施されていない。広島県内では

広島平和クリニック（広島市中区）が2月に初めて導入したばかりで利用者はまだ少ない。2、3万円の費用がかかる。

ただ、この方法の検査は全国でもまだ数ヵ所でしか実施されていない。広島県内では広島平和クリニック（広島市中区）が2月に初めて導入したばかりで利用者はまだ少ない。2、3万円の費用がかかる。



「高濃度乳房と分かって不安があれば、専門医に相談を」と呼び掛ける角舎医師（広島市南区）

## 乳がん見つけにくい 高濃度乳房

がんの中で女性が最もかかりやすい乳がん。検査の基本は国が推奨するマンモグラフィー（乳房エックス線撮影）だが、乳腺の多い「高濃度乳房」は、がんが見つかりにくことが課題となっている。どう対応すればよいのだろう。最近注目されるようになってきた他の検査方法なども含め、専門医に聞いた。

(鈴木大介)

## 専門医に最新検査方法聞く

## マンモ検診は見分け難しく

## 課題

割で、がんかどうかを見分けられないという報告がある点だ。マンモの画像では、脂肪は黒く写る一方、乳腺も腫瘍も同じように白く写る。高濃度の場合は、乳腺全体が白く度の場合は、がんを見落とすリスク

料が少額の自己負担で受けられる。しかし、広島県では、2016年の40～69歳の受診率は4割にとどまる。検査時に乳房を板状の器具で挟むため圧迫して痛みを伴うことで、乳房を他人に見られるのが苦痛で、避ける人もいる。

発生リスクが高まるという。

マンモは、受診率が低いのも難点だ。国は40歳以上の女性に2年に1回受けるよう勧めており、自治体によって無料か少額の自己負担で受けられる。しかし、広島県では、

中、放射線科医で東海大工学

部の高原太郎教授は、検診か

らMRIを用いる「ドライブ

ス法」と呼ばれる特殊な画像

診断を提唱する。

高原教授は先月広島市であ

った市民向けの講座でもドウ

イブス法について紹介した。

## 超音波・MRIにも注目